

商工会議所 L O B O (早期景気観測)

— 平成 1 2 年 9 月 調査結果 —

(平成 1 2 年 1 0 月 2 日)

○調査期間：平成 1 2 年 9 月 1 9 日～2 5 日

○調査対象：全国の 3 9 5 商工会議所が 2 6 6 6 業種組合等にヒアリング
(内訳) 建設業 3 9 3 製造業 6 4 8 卸売業 2 4 6
小売業 7 6 5 サービス業 6 1 4

○調査項目：今月の売上・採算・業況等についての状況 (D I 値を集計)
及び、業界として当面する問題等

※ D I 値について

D I 値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がり意味する。

D I = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)
業況・採算：(好転) - (悪化) 売上：(増加) - (減少)

日本商工会議所

本件担当：産業部 調査課 TEL: 0 3 - 3 2 8 3 - 7 8 4 4 / 7 8 3 6
E-Mail: sangyo@jcci.or.jp

なお、本調査結果は、日商ホームページ (<http://www.jcci.or.jp>) でもご覧になれます。

【平成12年9月調査結果のポイント】

業況DIはやや改善の兆しあるも横ばい傾向変わらず

- 9月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、卸売業およびサービス業でマイナス幅が前月水準に比べて縮小したことから、前月水準（▲37.2）よりマイナス幅が0.5ポイント縮小して▲36.7となった。マイナス水準での推移は平成3年4月から114ヵ月、また平成3年9月から109ヵ月連続してマイナス2桁水準となっている。今年3月に大幅な（7.2ポイント）マイナス幅縮小が見られた後は、概ね横ばい傾向で推移しており、やや改善の兆しが見受けられるものの、地域経済や足元の景況感は、依然として不安定な状況にある。

建設業では、大型イベント関連工事や災害復旧工事等により一時的に受注増との声の一部で寄せられるものの、「公共工事、民間工事とも発注件数が非常に少なく、厳しい経営環境にある」、「民間工事の低価格競争が激化しており、採算を確保した受注をとることが難しくなってきた」といった厳しい状況も多く指摘されている。製造業では、「製造業関連の設備投資が増加。半導体関連の動きが見られる」（電子部品）などの声寄せられる一方、「猛暑の影響で、売上は非常に悪い」（パン・菓子）といった猛暑の影響を訴える声や、「海外生産国の生産増加により、国内向けの生産及び販売が低迷している」（金物類）、「売上、採算とも低調であり、先行きは不透明で今後の見通しも厳しい。仕事があっても、取引先の値引き要求が強く採算割れになる」（金属加工機械）といった厳しい声も寄せられている。卸売業では、「暑い日が続くので秋物商品の売れ行きが悪い」（繊維品）、「初秋となるが残暑厳しく清酒がぱっとしない」（食料・飲料）、「旧盆以降野菜相場が大幅ダウンした影響もあり今月も売上は低迷気味で推移の模様」（農畜産水産物）など厳しい業況を訴える声がある一方で、「猛暑の影響で飲料関係はよかった。一連の食品異物混入で混乱したが、全体では大きな影響はなかった」（総合卸）、「先月まで横ばいから下落傾向をたどっていた市況が、国内の減産や輸入合板の減少により、横ばいから上昇に転じた」（建築材料）などの声も寄せられている。小売業では、「若者向け乗用車に動きが出てきており、今後新卒予定者を中心に販売強化」（自動車）、「暑いため主力の婦人洋品の夏物が引っ張っている」（百貨店）といった声寄せられる一方、「上旬は残暑が厳しく、土日は雨にも見舞われ、販促効果を打消し、やや低調な動き」（百貨店）、「来客数は増加。しかし客単価は減少。価格の安い輸入品の増加やディスカウター等の競合店との競争激化から利幅が減少している」（各種商品小売）などの声も寄せられている。サービス業では、「宿泊、料理の単価の低下が激しい」（旅館）、「残暑が厳しいため夏物が出てこない。コインランドリーなどが増え、そちらへ流れているようである」（洗濯）、「低価格帯中心で客単価の安い郊外型チェーン店出店の傾向が強まり、町中の小規模店の危機となっている」（食堂・レストラン）といった指摘がある一方、「HP作りなどIT関係の仕事が増加」（広告代理）、「需要の増加」（有線放送）、「人材派遣要請が好況業種を中心に増加傾向にある」（人材派遣）などの声も寄せられている。

売上面では、建設業を除く4業種で前月水準に比べてマイナス幅が縮小したことにより、全業種合計の売上DIはマイナス幅が0.2ポイント縮小して▲34.9となった。採算面では、製造業・小売業・サービス業で前月水準に比べてマイナス幅が縮小したことから、全業種合計の採算DIはマイナス幅が2.3ポイント縮小して▲37.7となった。

- 向こう3ヵ月（10月～12月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI（今月比ベース）が▲25.2となっている。
- 景気に関する声、当面する問題としては、年度下半期の公共工事発注、原油価格

の動向についての関心が高い。

【業況についての判断】

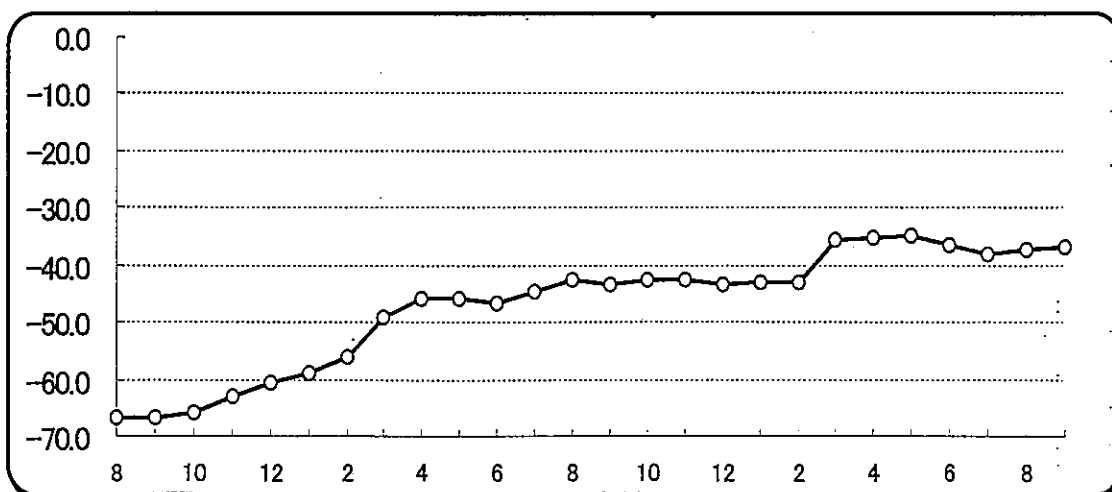
- 全産業合計の業況D I（前年同月比ベース、以下同じ）は、卸売業およびサービス業でマイナス幅が前月水準に比べて縮小したことから、前月水準（▲37.2）よりマイナス幅が0.5ポイント縮小して▲36.7となった。マイナス水準での推移は平成3年4月から114ヵ月、また平成3年9月から109ヵ月連続してマイナス2桁水準となっている。今年3月に大幅な（7.2ポイント）マイナス幅縮小が見られた後は、概ね横ばい傾向で推移しており、やや改善の兆しが見受けられるものの、地域経済や足元の景況感は、依然として不安定な状況にある。
- 向こう3ヵ月（10月～12月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況D I（今月比ベース）が▲25.2となっている。

業況D I（前年同月比）の推移

	12年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10～12月
全産業	▲35.2	▲34.9	▲36.3	▲37.9	▲37.2	▲36.7	▲25.2 (▲29.3)
建設	▲45.7	▲44.5	▲45.1	▲46.7	▲47.6	▲50.6	▲34.6 (▲29.7)
製造	▲24.2	▲26.2	▲26.2	▲23.3	▲24.9	▲26.5	▲17.4 (▲24.2)
卸売	▲36.7	▲40.4	▲37.6	▲46.7	▲43.8	▲34.2	▲24.8 (▲28.2)
小売	▲45.5	▲39.3	▲41.1	▲45.8	▲44.2	▲45.5	▲31.5 (▲35.5)
サービス	▲27.0	▲29.8	▲35.1	▲34.2	▲31.8	▲28.5	▲19.6 (▲27.6)

※「先行き見通し」は当月に比べた向こう3ヵ月の先行き見通しD I
（ ）内は昨年9月の先行き見通しD I <以下同じ>

≪業況D I（全産業・前年同月比）の推移≫



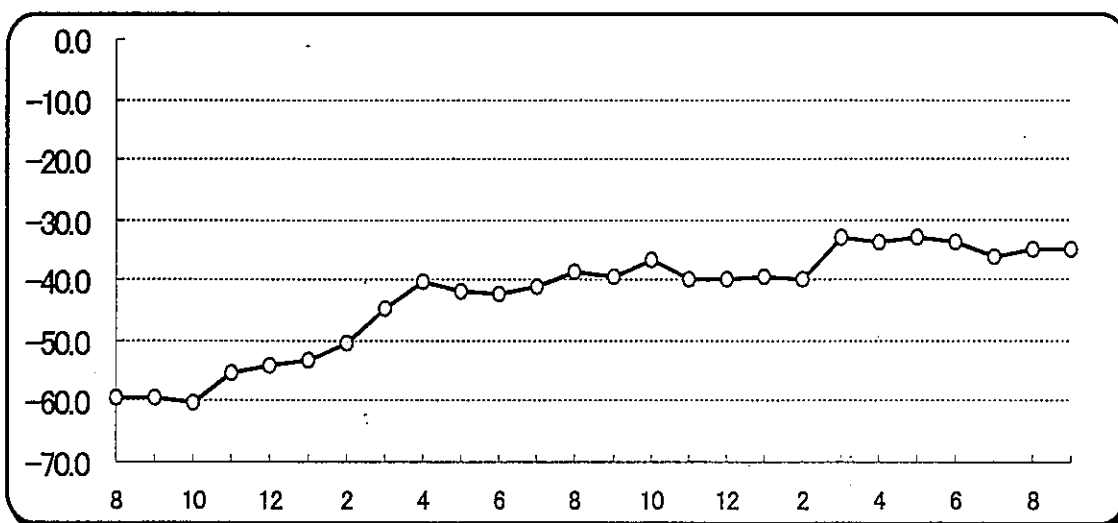
【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

- 売上面では、建設業を除く4業種で前月水準に比べてマイナス幅が縮小したことにより、全業種合計の売上DIはマイナス幅が0.2ポイント縮小して▲34.9となった。
- 向こう3ヵ月（10～12月）の先行き見通しについては、全産業合計の売上DI（今月比ベース）が▲19.1となっている。

売上（受注・出荷）DI（前年同月比）の推移

	12年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10～12月
全産業	▲ 33.9	▲ 32.8	▲ 33.9	▲ 36.3	▲ 35.1	▲ 34.9	▲ 19.1 (▲ 24.7)
建設	▲ 38.4	▲ 38.2	▲ 38.9	▲ 39.6	▲ 42.1	▲ 48.2	▲ 29.8 (▲ 26.7)
製造	▲ 20.5	▲ 18.4	▲ 18.5	▲ 19.3	▲ 18.9	▲ 18.1	▲ 6.8 (▲ 15.9)
卸売	▲ 41.0	▲ 40.4	▲ 32.9	▲ 48.5	▲ 41.0	▲ 36.0	▲ 19.3 (▲ 21.8)
小売	▲ 47.5	▲ 44.1	▲ 45.1	▲ 45.9	▲ 48.2	▲ 47.1	▲ 26.9 (▲ 32.3)
サービス	▲ 25.7	▲ 27.7	▲ 33.8	▲ 35.7	▲ 29.3	▲ 28.5	▲ 15.6 (▲ 25.2)

《売上（受注・出荷）DI（全産業・前年同月比）の推移》



(参考)

資金繰りD I (前年同月比) の推移

※平成12年7月期から調査実施

	12年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10~12月
全産業	-	-	-	▲ 23.6	▲ 23.4	▲ 25.6	▲ 18.4
建設	-	-	-	▲ 30.8	▲ 32.4	▲ 37.0	▲ 28.0
製造	-	-	-	▲ 20.3	▲ 20.3	▲ 23.5	▲ 13.4
卸売	-	-	-	▲ 22.2	▲ 20.8	▲ 19.7	▲ 20.1
小売	-	-	-	▲ 21.6	▲ 22.0	▲ 25.2	▲ 19.2
サービス	-	-	-	▲ 25.2	▲ 23.2	▲ 22.8	▲ 16.2

$$D I = (\text{好転の回答割合}) - (\text{悪化の回答割合})$$

【前年同月比D I】建設業、製造業、小売業で悪化超感強まる。

【先行き見通しD I】卸売業を除く4業種で悪化超感弱まる見通し。

仕入単価D I (前年同月比) の推移

	12年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10~12月
全産業	▲ 0.9	▲ 0.8	▲ 0.2	1.3	0.3	▲ 0.3	▲ 2.8 (▲ 3.7)
建設	1.7	1.3	1.7	0.4	0.3	▲ 0.4	▲ 2.2 (▲ 2.1)
製造	▲ 7.6	▲ 7.4	▲ 7.6	▲ 4.9	▲ 5.2	▲ 6.6	▲ 8.0 (▲ 7.4)
卸売	7.9	9.6	11.0	7.3	7.3	9.3	5.0 (3.5)
小売	4.0	3.9	4.0	9.2	7.1	6.6	2.5 (▲ 0.4)
サービス	▲ 4.7	▲ 5.2	▲ 3.0	▲ 3.5	▲ 5.2	▲ 6.1	▲ 7.4 (▲ 7.9)

$$D I = (\text{下落の回答割合}) - (\text{上昇の回答割合})$$

【前年同月比D I】卸売業以外の4業種で上昇超感強まる。

【先行き見通しD I】全業種で上昇超感強まる見通し。

従業員D I（前年同月比）の推移

	12年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10～12月
全産業	▲ 14.8	▲ 13.4	▲ 11.9	▲ 12.0	▲ 10.1	▲ 8.6	▲ 9.1 (▲ 10.1)
建設	▲ 27.2	▲ 25.3	▲ 24.9	▲ 24.2	▲ 24.1	▲ 21.3	▲ 17.4 (▲ 12.2)
製造	▲ 15.6	▲ 13.0	▲ 12.7	▲ 9.8	▲ 7.6	▲ 6.6	▲ 9.5 (▲ 15.8)
卸売	▲ 20.9	▲ 16.3	▲ 10.4	▲ 13.9	▲ 14.6	▲ 10.6	▲ 7.6 (▲ 8.4)
小売	▲ 12.3	▲ 9.2	▲ 8.0	▲ 10.3	▲ 5.8	▲ 7.0	▲ 9.1 (▲ 6.9)
サービス	▲ 6.4	▲ 9.3	▲ 7.2	▲ 7.0	▲ 6.4	▲ 3.5	▲ 3.5 (▲ 8.6)

D I = (不足の回答割合) - (過剰の回答割合)

【前年同月比D I】小売業以外の4業種で過剰超感弱まる。

【先行き見通しD I】製造業、小売業で過剰超感強まる見通し。

【平成12年9月の景気キーワード】

○ 競争激化

建設業からは、「仕事の減少に伴う競争が激しく受注量が減少。また、利益幅が減少」（堺・一般工事）、「民間工事の低価格競争が激化しており、採算を確保した受注をとることが難しくなっている」（北九州・電気工事）といった声が寄せられている。また、製造業からは、「海外生産国の生産増加により、国内向けの生産及び販売が低迷している」（金物類）など、特に海外製品との競争激化についての指摘が多く寄せられている。さらに、卸売業・小売業・サービス業についても、「来客数は増加。しかし客単価は減少。価格の安い輸入品の増加やディスカウンター等の競合店との競争激化から利幅が減少している」（二本松・各種商品小売）、「低価格帯中心で客単価の安い郊外型チェーン店出店の傾向が強まり、町中の小規模店の危機となっている」（上越・食堂、レストラン）など、顧客獲得競争の激化による採算面への影響を懸念する声が寄せられている。

○ 消費単価の低下

引き続き、消費低迷による売上減を訴える声が多く寄せられている。「単価の下落が激しい。特に衣料は今後も引き続き下落傾向で、見通し暗い」（新宮・百貨店）、「一人あたりの買上額が減少」（各務原・百貨店）、「宿泊、料理の単価の低下が激しい」（小浜・旅館）といった声が寄せられている。

○ 残暑の影響

今月の残暑による影響について、各業種から多くの声が寄せられている。「猛暑の影響で、売上は非常に悪い」（福島・パン・菓子製造）、「暑い日が続くので秋物商品の売れ行きが悪い」（宇都宮・繊維品卸）、「初秋となるが残暑厳しく清酒がぱっとしない」（鶴岡・食料飲料卸）、「旧盆以降野菜相場が大幅ダウンした影響もあり今月も売上は低迷気味で推移の模様」（石岡・農畜産水産物卸）、「残暑が厳しいため夏物が出てこない」（姫路・洗濯）といった厳しい声が寄せられている。その一方で、「猛暑の影響で飲料関係はよかった」（浜田・総合卸）、「暑いため主力の婦人洋品の夏物が引っ張っている」（土浦・百貨店）といった指摘も寄せられている。

【景気キーワードの推移】

年 月	景気キーワード		
12年7月	競争激化	消費低迷	先行き期待
8月	競争激化	消費低迷	猛暑の影響
9月	競争激化	消費単価の低下	残暑の影響

※景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関しての自由回答をまとめたもの。

(参考)

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	業況・売上・採算D Iとも前月水準に比べてマイナス幅が拡大し、特に業況・売上D Iは4ヵ月連続の拡大となっている。大型イベント関連工事や災害復旧工事等により一時的に受注増との声が一部で寄せられるものの、「公共工事、民間工事とも発注件数が非常に少なく、厳しい経営環境にある」、「民間工事の低価格競争が激化しており、採算を確保した受注をとることが難しくなっている」といった厳しい状況も多く指摘されている。
製 造	業況D Iは前月水準に比べてマイナス幅が拡大する一方、売上・採算D Iはマイナス幅が縮小している。「製造業関連の設備投資が増加。半導体関連の動きが見られる」（電子部品）などの声が寄せられる一方、「猛暑の影響で、売上は非常に悪い」（パン・菓子）といった猛暑の影響を訴える声や、「海外生産国の生産増加により、国内向けの生産及び販売が低迷している」（金物類）、「売上、採算とも低調であり、先行きは不透明で今後の見通しも厳しい。仕事があっても、取引先の値引き要求が強く採算割れになる」（金属加工機械）といった厳しい声も寄せられている。
卸 売	業況・売上D Iは前月水準に比べて大幅にマイナス幅が縮小する一方、採算D Iはマイナス幅が拡大している。「暑い日が続くので秋物商品の売れ行きが悪い」（繊維品）、「初秋となるが残暑厳しく清酒がぱっとしない」（食料・飲料）、「旧盆以降野菜相場が大幅ダウンした影響もあり今月も売上は低迷気味で推移の模様」（農畜産水産物）など厳しい業況を訴える声がある一方で、「猛暑の影響で飲料関係はよかった。一連の食品異物混入で混乱したが、全体では大きな影響はなかった」（総合卸）、「先月まで横ばいから下落傾向をたどっていた市況が、国内の減産や輸入合板の減少により、横ばいから上昇に転じた」（建築材料）などの声も寄せられている。
小 売	業況D Iは前月水準に比べてマイナス幅が拡大する一方、売上・採算D Iはマイナス幅が縮小している。「若者向け乗用車に動きが出てきており、今後新卒予定者を中心に販売強化」（自動車）、「暑いため主力の婦人洋品の夏物が引っ張っている」（百貨店）といった声が寄せられる一方、「上旬は残暑が厳しく、土日は雨にも見舞われ、販促効果を打消し、やや低調な動き」（百貨店）、「来客数は増加。しかし客単価は減少。価格の安い輸入品の増加やディスカウンター等の競合店との競争激化から利幅が減少している」（各種商品小売）などの声も寄せられている。
サービス	業況D Iは3ヵ月連続、売上・採算D Iは2ヵ月連続でマイナス幅が縮小している。「宿泊、料理の単価の低下が激しい」（旅館）、「残暑が厳しいため夏物が出てこない。コインランドリーなどが増え、そちらへ流れているようである」（洗濯）、「低価格帯中心で客単価の安い郊外型チェーン店出店の傾向が強まり、町中の小規模店の危機となっている」（食堂・レストラン）といった指摘がある一方、「HP作りなどIT関係の仕事が増加」（広告代理）、「需要の増加」（有線放送）、「人材派遣要請が好況業種を中心に増加傾向にある」（人材派遣）などの声も寄せられている。

(参考)

【ブロック別概況】

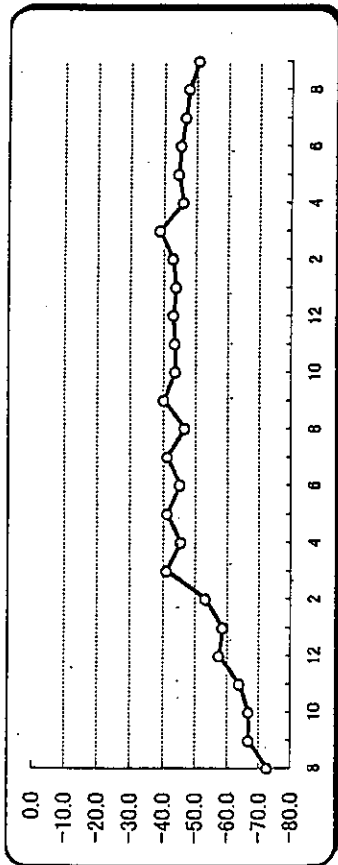
- ブロック別の業況D I（前年同月比ベース）を見ると、全産業合計では全ブロックとも引き続きマイナス水準での推移となっている。ブロック別では、北陸信越、近畿の各ブロックで前月水準に比べてマイナス幅が拡大し、他のブロックで縮小した。
- ブロック別の向こう3ヵ月（10月～12月）の業況の先行き見通しは、全産業合計では、引き続きマイナス水準。全ブロックで現状より上向くとの見方になっている。

ブロック別・全産業業況D I（前年同月比）の推移

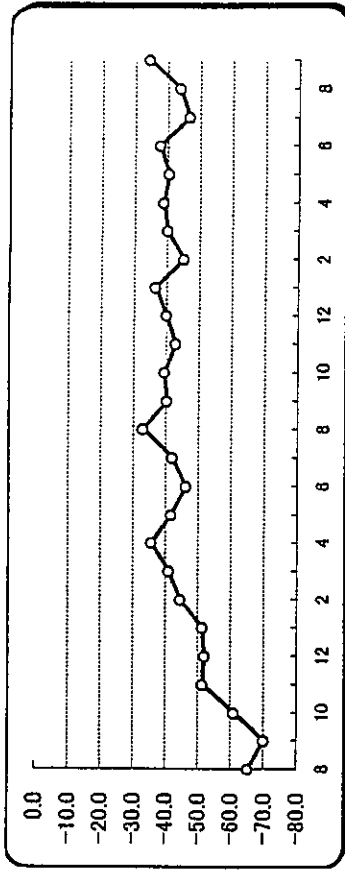
	12年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10～12月
全 国	▲ 35.2	▲ 34.9	▲ 36.3	▲ 37.9	▲ 37.2	▲ 36.7	▲ 25.2 (▲ 29.3)
北海道	▲ 36.8	▲ 41.4	▲ 44.4	▲ 40.0	▲ 38.5	▲ 29.1	▲ 27.4 (▲ 26.1)
東 北	▲ 35.5	▲ 33.3	▲ 34.8	▲ 34.4	▲ 33.6	▲ 32.3	▲ 27.2 (▲ 34.4)
北陸信越	▲ 29.9	▲ 31.0	▲ 28.0	▲ 30.4	▲ 29.2	▲ 38.9	▲ 29.0 (▲ 27.7)
関 東	▲ 33.4	▲ 33.7	▲ 34.2	▲ 38.2	▲ 36.7	▲ 33.5	▲ 19.4 (▲ 26.1)
東 海	▲ 36.8	▲ 36.3	▲ 32.2	▲ 37.3	▲ 34.0	▲ 33.1	▲ 24.4 (▲ 35.4)
近 畿	▲ 48.9	▲ 39.7	▲ 47.9	▲ 42.7	▲ 37.9	▲ 46.0	▲ 31.3 (▲ 30.9)
中 国	▲ 33.6	▲ 33.9	▲ 34.1	▲ 34.6	▲ 39.5	▲ 37.3	▲ 31.7 (▲ 34.4)
四 国	▲ 42.1	▲ 40.7	▲ 47.4	▲ 48.1	▲ 54.9	▲ 46.2	▲ 25.5 (▲ 22.9)
九 州	▲ 21.8	▲ 28.4	▲ 27.7	▲ 36.1	▲ 37.3	▲ 35.3	▲ 19.6 (▲ 28.9)

業況D I (前年同月比) の推移 (全国)

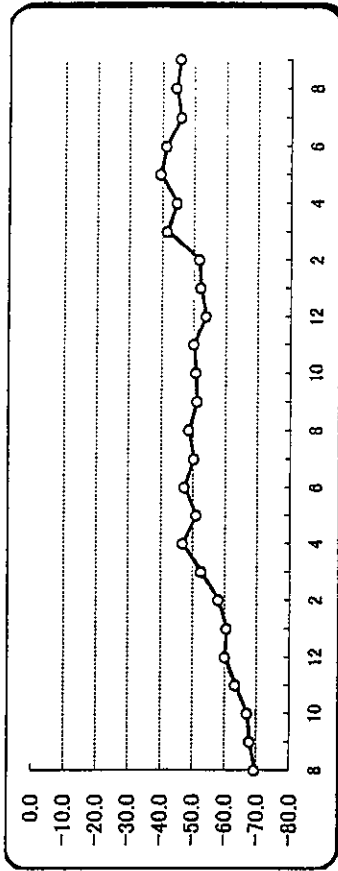
建設業



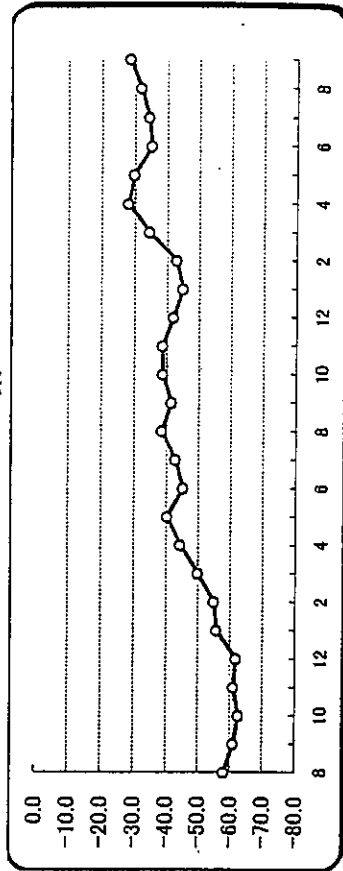
卸売業



小売業



サービス業



製造業

